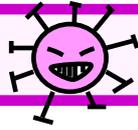


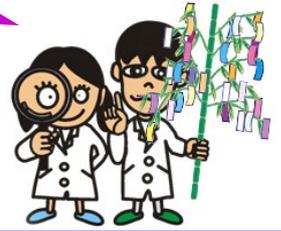
感染症に気をつけよう!

2022年【7月号】

横浜市内の感染症 流行状況



7月4日
発行



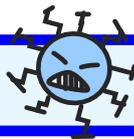
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
腸管出血性 大腸菌感染症**	発生	増加	10歳未満～70歳代で報告されています。その半数以上がO157です。【'19.9号】【ちらし】
感染性胃腸炎**	発生	横ばい	今年は昨年に比べ、多い状況が続いています。集団発生も報告されています。【'16.12号】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。妊婦の報告もみられます。【ちらし】

国立感染症研究所*

厚生労働省**

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

今、気をつけたい感染症



新型コロナウイルス感染症



- ▶ 主な感染経路のひとつに、**エアロゾル**感染があります。
- ▶ 感染した人の口や鼻から、**咳・くしゃみ・会話**などの時に排出される、飛沫(ひまつ)より更に小さな粒子(**エアロゾル**)を吸い込むことで感染するものです。



- ▶ この**エアロゾル**はウイルスを含んでいて、1メートルよりも離れた**空気中にとどまる**可能性があります。*



- ▶ そのため、**換気が不十分**だったり、**混雑**している室内に**長時間**滞在すると、感染が広がるリスクがあります。
- ▶ 密閉空間にならないよう、**適切に換気**して、**エアロゾル**感染を防ぎましょう。



参考リンク：横浜市保健所

【[新型コロナウイルス感染症に関する情報について](#)】

【[新型コロナウイルスワクチン接種について](#)】